



10月号

横浜市立中田小学校

学校だより

第420号



中田小

学校教育目標

さわやか笑顔中田っ子 思い合い ひびきあい  
共に生きる力を育てます。

平成27年9月30日

中田小ホームページ

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/>



## 相手意識

校長 蒲谷 猛

去る9月13日・14日、5年生の宿泊体験学習に出かけてきました。箱根の不安定な状況を回避しての再計画でしたが、西湖でのカヌー体験や富士山麓での酪農体験など、充実した2日間となりました。宿泊地は、御殿場にある「国立中央青少年交流の家」。敷地面積は178,174㎡、東京ドームのおよそ8倍あり、他の宿泊施設にはない開放感を味わいながら、とても快適に過ごすことができました。

国立の青少年教育施設であるので、利用団体も小学校だけではありません。当日は、大学のゼミ合宿の学生グループと中国からの語学研修生グループとの同宿でした。「交流」の主旨から、「朝のつどい」「夕べのつどい」が原則的に全宿泊団体参加で行われます。各団体の代表が壇上であいさつをしますが、中国からの研修生の方が前に出ると、どの方も必ず「先生、みなさん、おはようございます。」とか「先生、みなさん、こんにちは。」という風に話し始めることが心にとまりました。「おはようございます。」とか、「みなさん、おはようございます。」は聞き慣れています、  
「先生、みなさん」とつけるのは幼稚園・保育園でのあいさつ以来のように思えたからです。

そこで、つどい後に、中国研修生のグループの方々質問してみました。当たり前のことを聞かれたためか、はじめは質問の意図を理解してもらえない様子でしたが、『先生』というのは『学校の先生』だけでなく、その場にいる施設の方などの大人（目上の人）を指すのだと話してくれました。コミュニケーションの限界もあって、一般的なことなのかどうかは確認できませんでしたが、少なくとも青少年の家で出会った中国研修生の方々の『相手意識』に学ばされました。

『相手意識』という言葉は定義にあいまいな部分もありますが、『相手の存在を意識すること』、もっと積極的な意味では、『(伝えようとする)相手がどのような人なのか理解すること』です。前述の事例で言えば、「今、わたしが話そうとしている相手には、『児童生徒や学生・研修生』と『教師や施設職員』とがいると意識して、その人たちに向かって話をしようとする事です。人の存在を意識し、感謝や尊敬の気持ちをもつことがそのベースになっていると思います。

『相手意識』は、集団や社会のなかで高められていくものですから、学校教育ではぐくんでいきたい大切なものの一つです。しかし、一方で、日常の集団以外との接点があったときにこそ、高めるチャンスが膨らむものでもあります。

9月には、本校の3年生が『中田商店会ふれあいまつり』で学習の成果を発表する機会をいただきました。地域の諸行事でも、多くの方々とのかかわりのなかに子どもたちの輝く笑顔がありました。お世話になった方々の思いに気づき、感謝や尊敬の気持ちをもつことができるように、『相手意識』を高めていくことができるように、より一層の指導に励む思いを新たにしました。

村まつり

文部省唱歌

南能衛 作曲

村の鎮守の神様の

年も豊年満作で

今日はめでたい御祭日

村は総出の大祭

ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ

ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ

ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ

ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ

朝から聞こえる笛太鼓

夜までにぎわう宮の森

